

五葉山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 三陸中部森林管理署
所在地	岩手県(大船渡市、釜石市、気仙郡住田町)
面積	1,950.79ha
設定年	平成14年(設定)、平成17年(面積増)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	コメツガとヒノキアスナロ(ヒバ)を主とする天然林、及び五葉山の固有種であるゴヨウザンヨウラク等の貴重な植物群落のみならず、繁殖又は生息する動物にも留意し、原則として人手を加えず自然の推移に委ね、学術等に寄与する。



保護林内の状況



ゴヨウザンヨウラク生育状況

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、動物調査(哺乳類及び鳥類)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。哺乳類調査では自動撮影調査を、鳥類調査はスポットセンサスを実施した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・確認種と確認種数に大きな変化はみられなかったが、下層植生に幼齢木や実生が確認されず、ニホンジカによる食害が目立った。・哺乳類調査ではニホンジカ、ニホンテン等の4種が確認された。鳥類調査の確認種数は31種であった。・ニホンジカによる食害の拡大が懸念されるため、必要に応じて適切な対策を実施することが望ましい。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	4,618.59 ha
設定年	平成3年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	秋田・岩手県境の八幡平南部のオオシラビソ・ブナを中心とする原生的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林内の状況



保護林内の状況

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、動物調査(哺乳類及び鳥類)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。哺乳類調査では自動撮影調査を、鳥類調査はスポットセンサスを実施した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・高木層にオオシラビソが優占し、低木層にオガラバナ、オオカメノキ等が生育する針葉樹林である。林相に大きな変化はなく、おおむね健全な状況が確認された。・哺乳類調査ではアカギツネ、ツキノワグマ、ニホンジカの3種が確認され、鳥類調査では13種が確認された。・オオシラビソに低温害によるものと考えられる葉の変色が確認された。定期的な巡視を継続し、オオシラビソの生育状況を注視していく。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署 湯沢支署
所在地	秋田県(湯沢市、雄勝郡東成瀬村)
面積	4,612.56 ha
設定年	平成6年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	栗駒山・朽ヶ森山周辺は、日本海型のブナ・チシマザサ型で林床にユキツバキを伴い、また、ミヤマナラとハイマツが混交し、亜高山帯針葉樹林が発達しない特異な景観を呈しており、国定公園に指定されている。



保護林内の状況



保護林内の状況

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、動物調査(哺乳類及び鳥類)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。哺乳類調査では自動撮影調査を、鳥類調査はスポットセンサスを実施した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ブナが優占する極相林であった。出現種や種数等に大きな変化はなく、おおむね健全な状況が確認された。・哺乳類調査ではツキノワグマ、アナグマ、イノシシ等の9種が確認された。鳥類調査の確認種数は27種であった。・林相に大きな変化はなく、本保護林の原生的な森林生態系は全体として維持されていると考えられる。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

和賀岳生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(大仙市、仙北市)
面積	6,398.66ha
設定年	平成10年(設定)、平成14年(面積増)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	自然状態が十分に保存された天然林を主体とする森林が広く分布し、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する区域であることから、この区域の生物群集を保護・管理するため生物群集保護林に設定された。



保護林内の状況



ヒノキアスナロの幼齢木

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ヒノキアスナロが優占しており、全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向は前回及び今回ともほぼ同様であった。ヒノキアスナロの胸高断面積の増加及び実生や幼齢木も確認された。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

太平山周辺生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(秋田市、北秋田市、北秋田郡上小阿仁村)
面積	2,784.15ha
設定年	昭和46年(設定)、平成5年(再編)、平成18年(拡大)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	急峻な地形内に広域的に高齢級のブナ林が分布している。このブナ林及び尾根筋のキタゴヨウ・ネズコ林やオサバグサ、コアニチドリ等の貴重群落・貴重種の生育環境を保護することを目的として設定された。



保護林内の状況



下層植生の生育状況

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ブナ、サワグルミが優占しており、草本層を除き全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向はおおむね同様であった。・ブナ、サワグルミの胸高断面積合計は増加し、両種の小径木や実生も確認された。・おおむね良好な状態が保たれていたが、一部で土砂崩れの影響がみられた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

番鳥森・大仏岳生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(北秋田市、仙北市)
面積	1,157.67ha
設定年	平成18年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	番鳥森から大仏岳に至る一帯に原始的なブナ林が分布している。このブナ林及び大仏岳山頂域付近の風衝地に分布する岩壁植生を保護することを目的として設定された。当地のタカネイバラは秋田県内唯一の産地として貴重である。



保護林内の状況



ブナの実生

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ブナのみで胸高断面積割合の約74%を占める結果となった。健全な大径木も複数本確認された。ブナの胸高断面積自体は減少しているが、これはプロット内の大径木が老齢によって枯死したためと推測される。・複数の立木で胸高直径階の進階が確認され、プロット内では少数ながら幼齢木も確認された。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

葡萄森生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	578.57ha
設定年	平成18年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	典型的な日本海側多雪地帯のブナ林が、葡萄森中腹南西斜面等に発達している。このような植物群落を一体のものとして保存するために設定された。



保護林内の状況



ブナの実生

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・調査プロット内ではブナが優占しており、全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向は前回調査とおおむね同様の結果であった。・ブナの胸高断面積の合計は微減していたが、ブナの実生等が多数確認されたことから、林分の状況はおおむね良好であると考えられる。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

奥羽山脈北西部生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(北秋田市、仙北市)
面積	129.33ha
設定年	昭和47年(設定)、昭和48年(別途設定)、昭和61年(別途設定)、平成元年(再編)、平成10年(統合・再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	森吉山の南東側に位置し緩やかな台地状の山地となっている。標高約800~1,000m程度の高海拔地にブナ林、天然スギ林、ネズコ・キタゴヨウ林、低木林、中間湿原等がモザイク状或いは混交して地域的にまとまって発達しており、国内では他に例がなく、学術的にも貴重な地域である。



保護林内の状況



保護林内の状況

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、動物調査(哺乳類及び鳥類)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。哺乳類調査では自動撮影調査を、鳥類調査はスポットセンサスを実施した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ブナが優占する林であり、全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向はおおむね同様であった。・哺乳類調査ではアカギツネ、ツキノワグマやニホンジカ等、合計7科9種の哺乳類が確認された。鳥類調査では前回確認された27種に加え、新たにヤマドリやフクロウ等の7種を含め、合計36種が確認された。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

仁別スギ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(秋田市)
面積	20.50ha
設定年	昭和63年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は「仁別国民の森」南側の旭川沿いの斜面に成立する天然生林である。秋田県の特徴的な植生であるブナ林下部に発達した樹齢200年以上のスギ天然林であり、これらのスギ天然林の保護を目的として設定された。



保護林内の状況



倒木上のスギの幼齢木

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・全域がスギの天然林となっており、サワグルミやカツラが混生している。・スギの胸高断面積合計は微増しており、胸高直径が40cmを超える生立木も多数確認された。プロット内の倒木上で幼齢木が多数確認されたほか、到達ルート上でも実生や萌芽が確認された。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

夏瀬ヒバ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	9.47ha
設定年	昭和51年(設定)、平成3年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は、夏瀬ダム湛水域上流の左峰から半島のように突出した地域にある。付近一帯にもヒバ(ヒノキアスナロ)は点在しているが、当該林班のヒバは、胸高直径が30cm前後で、樹高も18m前後あり、ヒバが純林状の群落を形成しており貴重である。このヒバ天然林の保存と学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林内の状況



ヒノキアスナロの幼齢木

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ヒノキアスナロが胸高断面積合計のうち約92%を占める結果となった。胸高直径60cmを越える大径木は複数本健全な状態で確認されたが、大径木以外では、中径木は1本のみ確認で小径木は確認されず、ヒノキアスナロの胸高断面積合計は前回より減少した。・林相等に大きな変化はなかったが、一部の樹木で、ヒバ・アスナロてんぐ巣病の発生が確認された。今後のヒノキアスナロの天然更新には留意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

仙岩峠スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	6.94ha
設定年	昭和48年(設定)、平成3年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	生保内川流域の上木取沢に自生するスギ天然林の群落である。ほとんど人手が加えられていないことと合わせ、山腹の急傾斜地に自生しているのが特徴であり、この一帯は、「仙岩峠のスギ林」として特定植物群落の指定を受けている。この天然秋田スギの保護及び学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林内の状況



スギの幼齢木

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・スギについては大径木の生育状況は良好であったが、胸高断面積及び生育本数は前回から減少した。大径木が自然に枯死したものと考えられる。・ブナ、トチノキの胸高断面積は微増しており、ブナについては複数本において胸高直径の進階がみられた。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

ユキツバキ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	5.78ha
設定年	平成5年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は、田沢湖南部の急斜面地に成立する天然生林である。この辺り一帯はユキツバキの生育北限とされている。この林分のユキツバキの保護を目的とするために設定された。



保護林内の状況



ユキツバキの幼齢木

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ユキツバキは幅広い胸高直径階の個体が確認された。幼齢木が多く確認されるなど生育本数の増加がみられた。・スギ、ホオノキ、トチノキの3種で胸高断面積合計の約88%を占める結果となった。胸高直径60cmを越える大径木も複数本確認され、それらの生育状況は良好であった。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

雄勝峠スギ(湯沢)希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署 湯沢支署
所在地	秋田県(湯沢市)
面積	230.14ha
設定年	昭和46年(設定)、昭和48年(拡大)、平成3年(再編)、平成5年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	雄物川上流烏帽子山(標高954m)の山麓、秋田・山形両県境の雄勝峠付近に自生している貴重なスギ天然林である。ブナ林に混成したこの秋田スギの保護と学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林内の状況



スギの幼齢木

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・スギ、ブナ、トチノキの3種で胸高断面積合計の80%以上を占める結果となった。胸高直径60cmを越える大径木も複数本確認された。・スギの胸高断面積が減少したが、プロット内及びその周辺において幼齢木が多数確認された。・ブナ、トチノキの胸高断面積は微増していた。また、小径木のオオバクロモジ、オオカメノキ等が確認された。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

蔵王生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署
所在地	山形県(山形市、上山市)
面積	1,827.98ha
設定年	平成12年(設定)、平成16年(面積増)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は奥羽山脈南部の蔵王連峰に位置し、山地帯から亜高山帯にかけての希少な植物及び群落が見られる。これらの植物群落を一体のものとして保存するとともに、森林生態系の効果的な保全に資する。



保護林内の状況



オオシラビソの実生

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・オオシラビソが優占しており、全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向は前回調査とおおむね同様であった。下層植生調査では優占種、植被率ともに大きな変化はみられなかった。・林相等に大きな変化はなかったが、主要樹種であるオオシラビソの立ち枯れが一部で継続して確認されている。オオシラビソの枯損被害に対する対策は引き続き実施していく。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

遊仙峡クリ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署
所在地	山形県(山形市)
面積	10.90ha
設定年	平成2年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は山形県山寺の南東約4kmに位置する、クリが多く自生する広葉樹天然林である。遺伝資源の保存を目的として設定された。「遊仙峡クリ林木遺伝資源保存林」から移行したものである。



保護林内の状況



クリの実生

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ミズキとオニグルミが優占しており、両種の生立木及びその他高木種のミズナラ、ケヤキ、保護対象種のクリの生立木は健全に生育していた。また、全体的な出現種、種数、胸高断面積合計の傾向は前回調査の結果とおおむね同様であった。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

雄勝峠スギ(最上)希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署 最上支署
所在地	山形県(最上郡真室川町)
面積	97.97ha
設定年	昭和46年(設定)、昭和48年(拡大)、平成3年(再編)、平成5年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	雄物川上流烏帽子山(標高954m)の山麓、秋田・山形両県境の雄勝峠付近に自生している貴重なスギ天然林である。ブナ林に混成した秋田スギの保護と学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林内の状況



スギの稚樹

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・胸高断面積合計の8割以上をスギとネズコが占める。両種とも胸高断面積の増加がみられ、胸高直径60cmを越える大径木も複数本確認された。下層植生調査等により林床での生育が良好な状況も確認された。・林相等に大きな変化はなく、安定して維持されている。

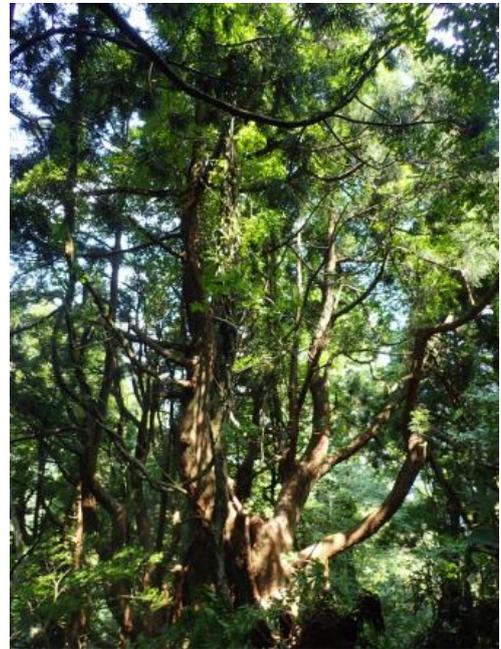
※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

山の内スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署 最上支署
所在地	山形県(最上郡戸沢村)
面積	254.54 ha
設定年	昭和48年(設定)、平成元年(再編)、平成29年(再編)、令和元年(所管替に伴い面積1.28ha減少)
保護林の概要 (設定目的)	山形県内を流れる最上川下流左岸に位置し、通称「山の内スギ」と呼ばれるスギ天然林である。日本海側の多雪条件下に多いとされるアシウスギ型樹型を呈しており、かつ、ユキツバキ型の林床を持つ点が貴重である。



保護林内の状況



スギ大径木

モニタリング調査概要

実施年度	令和5年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・スギが優占し、ホオノキ、ブナ等が複数本生育する針葉樹林である。・スギの胸高断面積は微増し、胸高直径80cm以上の大径木も複数本確認され、胸高直径階の進階が確認された。・その他の出現種及び胸高断面積に大きな変化は見られなかった。・林相に大きな変化はなく、おおむね健全な状況が確認された。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。